

分離と接続の住宅 公室の二極分離によって多様化する空間接続

0. はじめに

日本の住宅は、可変的で自由度の高い空間から、「食寝分離」「寝室分離」「公私室分離」と居室の分離によって生活の質を向上してきた。しかし現代では、都市機能の 充実によって資金さえあれば最早都市で生活できる環境が広がっている。

吉岡賞受賞作品の分析から得た多様な空間接続形式と、家族を守る「家族圏公室」都市を引き込む「都市圏公室」という2つの傾向を踏まえ、住宅が持つ豊かさを思考する。 敷地は吉祥寺のサンロード商店街を抜けた住宅地。吉祥寺は駅周辺から都市計画道路沿いに伸びる商業地域と、一本入ると閑静な住宅地が広がる住居専用地域に明快に 分離して計画することで、互いに住み分けながら発展した街である。

私が設計するのは、生活機能が店舗機能と共有される3つの住宅。都市領域が住宅の玄関口から内部まで入り込み、周辺住民を招き入れる空間的奥行が生まれる。多種 多様な住人の生活領域を周辺との分離によって守りながら、空間と機能の接続によって形を変えて現れる接客空間が、現代における住宅での生活を彩る場所となる。

眺望接続





外構接続

まちを見下ろす大きな窓の下を潜って中庭に入る

扉の開閉によって室内の様子が見え隠れする

屋根に沿って伸びる窓が中庭と空を映す

1. 研究 現代住宅の空間接続

吉岡賞第1~30回の全57作品の中から、専用住宅31作品を対象とし、公室配置の類型を起点に、面積、内部開口、外部開口分析する

	no. 1	no. 2	no. 3	no. 4	no. 5	no. 6	no. 7	no. 8	no. 9	no. 10	no. 1 1	no. 12	no. 13	no. 1 4	no. 1.5	no. 16	no. 1.7	no. 18	no. 19	no. 2 0	no. 2 1	no. 2.2	no. 2 3	no. 2.4	no. 25	no. 2 6	no. 27	no. 28	no. 29	no. 3 0	no. 3 1
- 東京	4	1987	187 196	190	1985	9 1991	1 199	12	0 1995	1995	1996	199	7 200	0 20	200	200	200	3 200	200	4 200	2005	5 200	20	06 200	7 2008	2010	2011	2012	2012	201:	2013
na.	16 =83	An≄ WP H	2000 黄の	R 同性ヶ谷の1	家 瀬畔の住宅	近ヶ城の客	東川口の住宅	E HOU	28 E 18-1	和の家一:	F4	5(13) ミニ・ハウス	ナテュラル シェルタ	他川の住宅	屋根の	エアー・ハウ:	1 150 m	a BLC	成れの長さ	0 8	B 阿保谷病の	F 17 7	F 200	4 福金の住宅	house	地中の種類	Small House	二重媒族の家	ಸಿಸಿದಕಿದ%	大甲の住居
99.81	e o	村村文 初瀬	18章	高木数:	字 木下盘子	古书就章	非口水食・ 田中菜(+17	z stane	異式和自	5 2 2 2 2 2	青木川	E # 84 84 8	1 280 H	信報光的	手塚貴端 (手塚由)	I-9-10	E E+#	9 881	9 中村美力	有馬斯2	944	2019年 (吉村韓春		長谷川県	887	東大弘和+ 東北陽子	8887	大西麻黄牛 百田有香	和下的	兵四陽
22	rite .	188	8 1	11	28	18	18	2	2.88	18	2.00	18	11	n 1	MT18	18	1	1	tt 31	m 2 m	3.88	n ot	2	88 15	2 10	18	18	2.88	180	18	18
公室業	種	27.3 ml 60.	ml 32.6	33.01	ti 40.1 m	20.1	21. 3 m	19.5	34.3 m	43.9 m	39.1 m	44.7 n	d 28.0 r	27.1	33.6 m	40.8 m	56.2	d 67.2	1 35.41	23.9 m	33.5 m	59.81	56.3	m 35.3 r	H 57.6 m	50.6 m	\$1.7 m	16.2 m	13.1 ml	53.7 m	45.2 m
公室床/徒	20	18%	2% 16	16 351	14 23%	16%	179	16 33	30%	37%	29%	239	6 319	4 35	351	429	381	80	151	179	1 25%	4 301	14	74 351	4110	471	41%	24%	14%	38%	43%
見口袋	特	7.4 ml 6.	ml 2.8	16.0 /	m 4.3 m	42.8 m	20.0 m	13.5	11.6 m	19.5 m	3.6 m	9.1 m	f 5.5 r	n 8.1	19.4 m	26.7 m	2.1	d 35.21	rl 15.4 r	el 1.7a	14.5 ml	f 5.7 s	19.6	ml 20.4 r	d 8.5 m	16.3 m	6.5 m	4.1 m	11.3 ml	7.2 m	4.1 m
송 웨ロ	8	2	2	1	4 1	2 1:	1	9	4 3		1 2		4	4			ii .	1	6	3	1 8	8	1	5	6 7						4 :
部 親口方	(内	1方向 2:	1方	3方1	自 1方向	2 方向	3.75	1 2方	1 2方向	3 方向	178	2.70	3.751	1 2方	2.751	3 751	1.51	3方	自 2方1	151	6 方向	1 2方1	4方	南 3方1	4 方向	2.59	2方向	2.方向	3方向	2.59	4 2方向
開口/公室	ER.	27%	204 8	6 421	1196	L 205%	L 541	10	16 3416	45%	916	201	4 204	4 30	589	659	41	s 52°	16 441	N 79	4316	4 101	35	74 581	15%	32%	20%	25%	86%	13%	4 216
見口袋	188	6.4 ml 62.	ml 19.0	14.6	n 31.9 m	30.4 m	11.7 e	13.7	# 41.0 m	21.2 m	16.7 m	32.0 m	n 10.4 r	rl 21.3	3.6 n	17.2 m	63.9 n	rl 23.5:	10.9	rl 15.8 m	13.5 ml	rl 14.9 r	20.5	m 3.2 r	rl 13.9 ml	35.8 m	21.0 m	13.1 ml	1. 8 ml	7.1 m	115.9 m
선 보다	95		5	4	5	3	t .	3	6 9		- 4		4	4			2	5	4	7	4 5	3		6	2	1		- 3	- 1		
10 RD7	198	2万円 4:	FR 2.75	3.751	378	2.758	1.29	3.75	4.28	2.759	378	2,751	3 251	9 37	1.75F	2.758	3.751	2.70	120	2.75	3.75R	9 2.751	3.77	国 2.751	4.29	3 758	1.278	3.75円	1.58	2.759	4.28
関ロ/公室	(8)	24% 10	994 58	6 381	14 32%	1469	521	10 99	6 120%	48%	42%	719	4 314	4 72	119	429	2141	W 357	Ne 311	607	40%	4 251		74 91	6 33%	73%	68%	81%	14%	139	25/%
アイソメ関 外部開日 内部開日																															

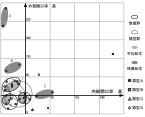
1-1. 公室配置類型

一般的に住宅を設計する際に、開口よりも先に室配置が優先されると考えられる。また、公室が GLで都市と接続するのと、GLから離れて都市と接続するのとでは目的も連続性も異なる。そこで、 公室配置を起点に他の項目に対して分析する。公室形状を立方体として捉え、最大で6面の外部境 界面を仮定する。公室がGL階にある場合は下方向の外部境界面を除いた5面とする。マトリクス から得たA~Dの公室配置類型を元に開口分析する。

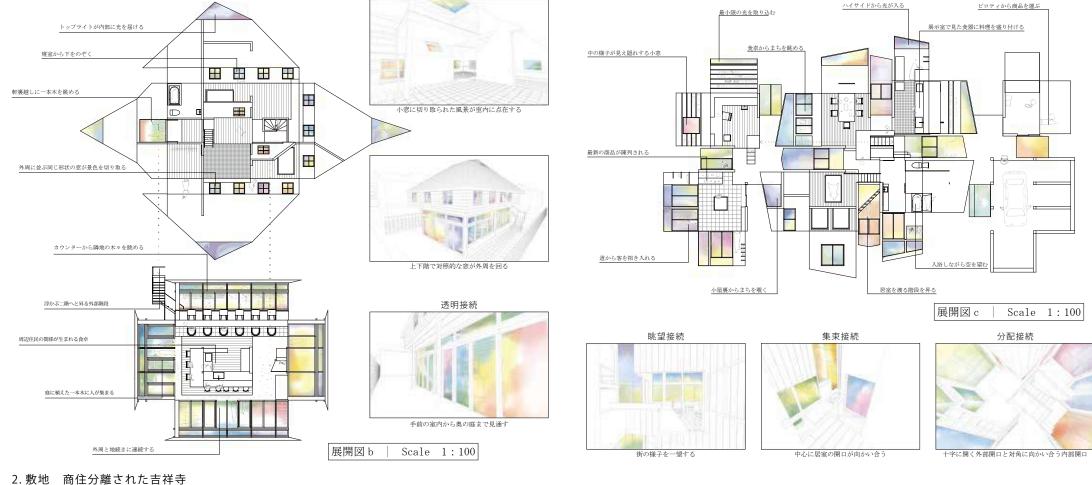
外部境界面 公室階	1面	2面	3面	4面	5面	6面
GL	29	4 7 16 30	1 6 12 13 18 24 26	3 10 14 17 27 31		
non G L			19	5 8 15 21 23 28	2 9 11 20 22 25	D

1-2. 接続形式

形式1は、田の字プランの縁側から庭を経た都市との接続を応用し、庭と一体となる公室が都市と接 続していると捉えることが出来る。形式2は、公室を私室群から切り離すことで、都市と連続的に接続 している。形式3は、住宅における公室の中心性が高く、公室を核として住宅と都市が接続している。 形式 4, 5, 6 は、公室が G L から離れることで、動線の接続が無くなり、風景や光、風などの環境とし て都市と接続している。そのため、形式6のような眺望や、形式4,5のように多方向に複雑に展開する 接続形式になっていると考えられる。



都市圏公室 外部と視線や動線が連続する		家族圏公室 外部の自然環境を室内に取り込む									
1 【 外構接続 】	2【 透明接続】	3 [集束接続]	4【 分配接続 】	5【 錯綜接続】	6【眺望接続】						
接道ではなく、敷地内に計画された外標に対して強く接続する	内部接続を極端に小さくして、外壁がない	公室の周りに隣室が取り巻く	内部開口と外部開口が近い面積で分配され、内外と等価に接続する	ロの字型やコの字型の平面の中に細かに開口が展開	1 方向に対する大きな開口で眺望を取り込む						



錯綜接続

● 物販

敷地は吉祥寺のサンロード商店街を抜けた住宅地。吉祥寺は駅を中心に4つの 大型商業施設を配置することで「回遊性の高い街づくり」を実現している。用途 地域を見ても、駅を中心とした都市計画道路上に伸びていく商業地域と、周辺に 広がる住居地域とが明快に分離されていることが分かる。それぞれの領域を分離 することで、商業地域には大規模から小規模に至るまで店舗同士の相互作用を与 え、住居区域には人ごみから外れた静かな居住環境を生み出している。互いに干 渉しすぎないための区域の分離が、異なる環境として特化するために有効な手段 として機能している。





人通りが少なく静かな住居地域



都市機能に彩られる商業地域



用途地域によって住み分けしながら発展した吉祥寺

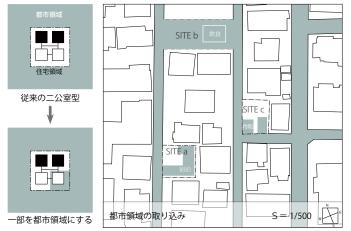


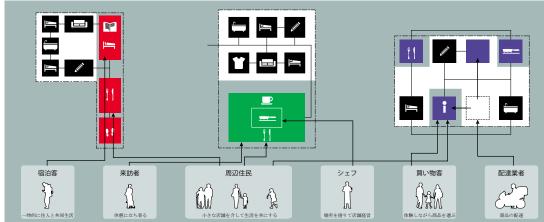
無色の住宅地の中に小さな都市機能を挿入する

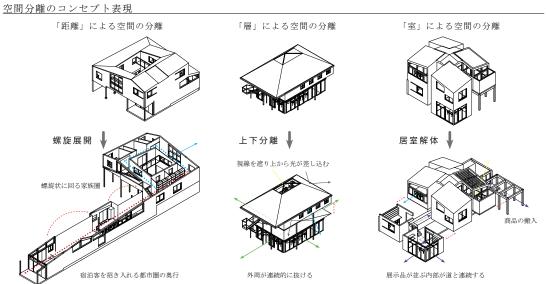
都市圏公室は住宅での生活行為を店舗としての機能 と共有することによって、空間的連続性だけでなく、 日常的に住宅の一部が都市との関係性を持つ状態を構 築する。

今までの住宅と都市機能が複合した併用住宅とは、 住宅の生活行為と都市機能を共有する点で異なる。 従来の二公室型を発展させ、公室を住宅の枠組みから 外して都市領域とすることで、住宅と都市空間が接続 される。

生活行為から発展した都市機能を、再び生活行為と 共有することによって、都市の逃げ場として閉じてき た住宅の枠組みを解体する。

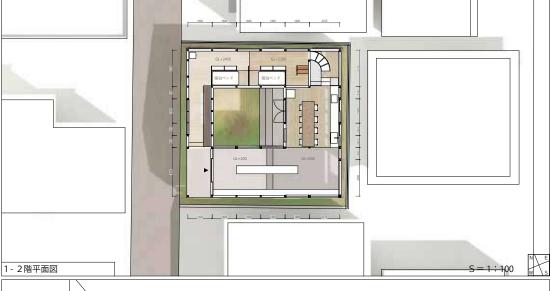


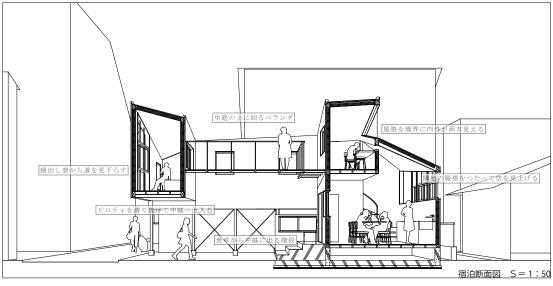




30 m以上の距離を持った奥行きのある公室が、敷地境界に寄り添いながら折れ曲がって巻いていく。宿泊客と住人との共同生 活をするこの住宅は、距離を持った公室によってそれぞれの生活空間が緩やかに変化する。外から人を招き入れる際にも、この折 れ曲がった奥行は、生活において隠れたい寛ぎの場所を維持することができる。1階と中庭をつなげて使うことで、住人と周辺住民、 宿泊客が集まってホームパーティすることもできる。曲がる度に空間性が切り替わり、都市圏から家族圏へと徐々に変化していく。







1階平面図

周辺に対して外壁をつくらずに受け入れる Cafe&Bar としての1階と、屋根に覆われて上から光が差し込 む2階に明確に分離することでそれぞれの空間性の違いを生み出している。都市圏公室は住人の団らんの 場所でありながら、周辺住民とも食事を介して交流する場所になる。対して家族圏公室は周辺の視線から 守られた内向きの室であり、家族という集団が都市から分離することによって安心できる生活環境となる。

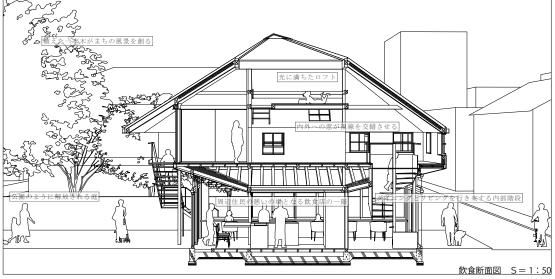
000000











公室が複数に分離することによって、各公室を自由に行き来しながら、集まったり離れたりすることができる。3つの都市圏公室は 物販店としての機能を持ち、新しい器や調理器具などの生活用品が展示される場所から、実際に使って調理する場所、食事する場所へ と段階を追って体験する。買い物客や周辺住民と、日々使っている物を介して交流が生まれる。2つの家族圏公室は、それぞれ仕事や 勉強をしに集まる空間と、降り注ぐ光に満ちた水回り空間。空間性の異なる小さな公室群を中心の吹き抜け空間が接続する錯綜的な住宅。













